

2025年度 第2回地域協議会・地域医療支援委員会 議事録

【日 時】 令和7年9月3日（水）18：30～19：30

【場 所】 四日市羽津医療センター4F 第一会議室

【出席者】 鳥井孝宏（当会委員長、四日市医師会常任理事）、高司智史（四日市市保健所所長）、水野義隆（四日市市北消防署署長）、内田寛（羽津地区連合自治会会長）、徳山直子（三重県乳腺患者友の会『すずらんの会』代表）

以下 当院職員

山本隆行（院長）、長谷川浩司（副院長）、岩永孝雄（副院長）、中島滋人（統括診療部長）、後藤信二（事務部長）、牧野真美（看護部長）、伊東亜矢子（附属訪問看護ステーション看護師長）、中島佐知子（地域医療連携室看護師長）、平岡めぐみ（2階外来看護師長）、三輪陽子（栄養管理室長）、位田弥生（総務企画課長）、越川健太郎（医事課長）、荒川真行（総務企画課長補佐）、澤田晴美（健康管理センター管理課長補佐）、大橋紀彦（附属介護老人保健施設管理係長）、大川奈緒子（当会事務局・総務企画課一般職員）

○開会挨拶＜山本院長＞

本日は、お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。実はこの会も長くやっておりますが、一部の方に進行に関してのアドバイスをいただきましたので、少し進行内容を変えてみたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。皆様の貴重なお時間を有効に使えるようにさせていただきます。

1. 四日市羽津医療センターからの報告事項

- ・病院の現況報告について（令和7年4月～6月）

＜岩永副院長＞

【資料参照】

初診患者数と紹介患者数

初診患者 令和7年4月～6月 1928人 前年同月比+142人

紹介患者 令和7年4月～6月 1283件 前年同月比▲121件

初診患者数は前年度より増加しております。ただ、紹介患者数が減っております。これはおそらく救急の受け入れが増えており、それが紹介患者数にカウントされない部分があるためこのように乖離してしまうと考えます。当院も試みとして救急搬送で入院された患者さんが、かかりつけ医がある場合は、かかりつけ医の先生が当院の救急に受診したことを知らない事もあるので、当院から入院時の診療経過について、かかりつけ医に情報提供を始めており、開業医さんへのサービスとして良いのかと考えます。

救急患者受入れ強化の取組み状況

受入れ台数 令和7年4月～6月 437件 前年同月比+69件

昨年に比べて救急車受入れ台数は増加しております。輪番日の応需率も6月は97%と非常に高いです。

入院患者数

新規入院患者数（月平均） 令和7年度 409人 前年度比+17人

救急患者の受入れの増加に伴い、入院患者数も増加しております。

目標値を400人としておりますが、令和7年度に至っては新規入院患者月平均は409人です。

1日平均入院患者数は、今年度の目標値を160人とし、できれば170人と設定しておりますが、令和7年度4月～6月の平均としては157人です。なお、本日は163人でした。

7月・8月は160人を超えているので、順調な状況と考えます。

・健康管理センター事業報告（令和7年4月～6月）

院内健診月別件数（生活習慣病予防・人間ドック）

院内健診実施件数 4月 2347件、5月 2427件、6月 2812件 合計 7586件

前年同月比+197件

前年4月 2259件、5月 2551件、6月 2579件 合計 7389件

4月・6月については、前年同月を上回っております。5月に関しては若干減少しております。おそらく昨年より連休が長かったため減少になったと考えます。

院外健診月別件数

病診検査件数（生活習慣病予防・人間ドック）

院外健診実施件数 4月 2084件、5月 2682件、6月 3106件 合計 7872件

前年同月比+26件

前年4月 1966件、5月 2801件、6月 3079件 合計 7846件

4月・6月については、前年同月を上回っております。5月に関しては若干減少しております。院内健診と同様の理由と考えます。

院内特定保健指導実施件数

4月～6月の指導件数は前年を上回り、前年度比+21件となっております。職員の方が努力した結果と考えます。

院外特定保健指導実施件数

4月～6月の指導件数は前年を上回り、前年度比+71件となっております。

・附属介護老人保健施設利用状況報告（令和7年4月～6月）

入所者平均前年比 令和7年度 87.4人 前年度比+0.1人

短期利用者 令和7年度 0.9人 前年度比▲1.9人

入所率 令和7年度 88.3% 前年度比▲1.8%

老健の目標としては90人としておりますが、若干90人を下回る状況となっております。

在宅復帰率 4月 50%、5月 51.9%、6月 60%

前年4月 70%、5月 66.7%、6月 69.2%

昨年度より在宅復帰率は減少しています。目標は60%としておりますので、4月・5月は下回る状況です。

通所利用者平均

昨年度の4月～6月は13～14人でしたが令和7年度は増加しており、6月では17.8人と目標の20人に近づきつつあります。お試しデイ（1日500円）の実施を強化しておりますので、増加に繋がったと考えます。

・附属訪問看護ステーション利用状況報告（令和7年度4月～6月）

総利用者数 月別割数 令和7年4月～6月 241人 前年同月比+24人
昨年度と比べ利用者数は安定して月80名前後を保っております。

月別延べ訪問件数 令和7年4月～6月 1604件 前年同月比+80件

月500件以上を保つことができます。以前は重度の障害やがん末期などの利用者が多かったのですが、最近の傾向としては、介護度が低い方、独居や老夫婦で暮らしている方で心疾患や糖尿病などの持病があり、認知機能の低下により在宅療養が困難になりつつある方からの依頼が増加しています。

（委員長）

医師会も訪問看護をしており、担当理事ですが非常に困っております。コロナで利用件数が落ちたかと思いましたが、コロナで入院すると面会できないという理由で在宅継続という家庭がすごく多く、訪問看護の件数は落ち込まなかったのですが、逆にコロナが落ち着き、面会が可能になると施設入所のハードルが下がって在宅の数が減っています。なおかつ四日市地域訪問看護ステーションがかなりの勢いで増えており、患者の取り合い、重度の症例こそ実入りがいいので営利目的のステーションが多くあるという事が非常に問題です。

我々は一般の事業所ではできない方をターゲットにやっていくのだと高い理想を掲げてやってきましたが、そう言っておられず、我々も介護度の低い方をターゲットにして、ある程度収入を見込んでいかないと継続が難しい状況です。

（行政）

救急患者受入れの部分で非常に力を入れていただき右肩上がり、特に輪番日は100%近く受入れてくださり本当に感謝しかありません。救急隊からも感謝の気持ちを十分に伝えてきてくださいと話がありました。

1点ございまして、具体的な数字があるわけではないのですが、他の二次病院の受入れに比べますと、受入れにかかる時間が若干長いという話がございます。一旦受付窓口で電話を受けていただいて医師・看護師に繋いでと羽津医療センターの受入れの仕組上仕方ない部分があるかと思いますが、なんとか改善できると円滑に受入れていただけるのではないかと救急隊から意見が出ておりましたので参考までに申し上げます。

（院長）

事務所を通して電話繋いで待たせてという感じですか。

（行政）

そうですね。

（越川医事課長）

必要最低限の事だけをお伺いして、すぐ繋ぐようにしております。

(長谷川副院長)

他病院は救命がありますので、救命の医師が直接受けている。

(院長)

当院はすべてが掛け持ちのため難しく、当直帯は別ですが、なんとか努力いたしますのでよろしくをお願いします。

(自治会)

健診結果が届くのがすごく遅い。かかりつけ医にも結果がまだ来ませんかと言われます。

色々な方が四日市羽津医療センターから健診結果が届くのが遅いと言っています。

(長谷川副院長)

春に体制が変わり、チェック機構を強化したために日にちが伸びてしまったという事がございましたが、現在改善して10月からは例年通りの配送に戻るかと思えます。

・はづナビについて

＜中島看護師長＞

当院が発行しております広報誌の「はづナビ」についてご紹介させていただきます。

はづナビについてご存じの方もいらっしゃるかと思いますが、今回作成するにあたり調べておりましたら2009年4月に第1号が発行されました。その中でも山本院長が第1号で特集され、IBDチームが紹介されておりました。当時は年に4回発行しておりましたが、現在は夏と冬の年に2回発行しております。この7月に第49号が完成しました。こちらの広報誌は赴任された先生や治療の紹介をさせていただいておりますが、それが最初のページで「特集！医療アクション」・「教えてコーナー」に掲載しております。今回の夏号では4月に赴任された整形外科の片岡先生を取り上げまして、専門分野としております肩から手にかけての病気や治療について掲載しております。ご興味のある方はぜひご覧いただければ嬉しいです。

はづナビは病院の多職種で構成された広報委員会で作成しております。私も広報委員会のメンバーであり、はづナビを担当しております。はづナビをすごく楽しみに待っておられる患者さんがおまして、「まだ冬号は発行されないのですか」という問い合わせもくるぐらいです。皆さんに喜ばれている広報誌になっておりますが、また充実した内容をお届けできるように今後も広報委員として取り組んでいきたいと思っております。

(委員長)

何部ぐらい作成しているのですか。

(中島看護師長)

1,500部です。

・マイナンバーカードの健康保険証利用について

＜越川医事課長＞

国の方針として、原則マイナ保険証に一本化、一本化以降も資格確認書で保険診療可能、有効期限切れの従来の保険証も2026年3月まで利用可能です。

2025年12月2日以降、従来の健康保険証の新規・継続更新の発行は停止され、マイナンバーカードを健康保険証として利用する仕組みに一本化されます。ただし、マイナンバーカードがない場合や持っていない健康保険証として登録していない場合は、代用となる「資格確認書」が発行

されます。また、2026年3月末までは、有効期限が切れた従来の健康保険証でも保険加入が確認できれば保険診療を受けられます。マイナ保険証を保有している方でも、高齢者や障害がある方などマイナ保険証の利用が困難な場合は、申請することによって「資格確認書」が交付されます。マイナ保険証を利用することで医療機関への通院時に便利になる事が2点あります。1つ目は正確なデータに基づく診療・薬の処方で、これは患者さんが他の病院で処方されている情報や健診結果などを把握することができます。2つ目は医療費の支払時、限度額以上の場合の一時不払いが不要になります。

マイナンバーカードを用いた受付は、顔認証付きカードリーダーのある医療機関・薬局でご利用いただけます。①顔認証付きカードリーダーにマイナンバーを置く、②本人確認を行う、③各種情報提供の同意選択を実施して医師・薬剤師に対する情報提供の可否を選びます。④受付完了したら、マイナンバーカードを取り出します。

まとめとして、健康保険証の新規・継続更新の発行をしないということは、国の方針としてマイナンバーカード完全導入を目指す方策の一つと考えます。医療機関としては国の方針に沿って今後も様々な変化に順応していく必要があると考えます。

(委員長)

高齢の方で操作が難しい方もいるかと思いますが、どなたかがついていていいのですか。

(越川医事課長)

職員がついて対応しております。

・給食のリニューアルについて

<三輪栄養管理室長>

昨今取り巻く環境から、どうしても食事については食材料費の高騰を受けて費用面で厳しい実情がございます。その中でも昨年度の診療報酬改定で患者様の自己負担額が上がり、またこの4月からさらに上がるというところでより厳しい目を頂いている状況です。当院としましてもできる事少しずつ改善しており、この4月から献立をリニューアルした事をご紹介させていただきます。はづナビにも一部掲載しておりますのでまたご覧ください。

4月から献立をリニューアルしております内容としましては、患者様からの声を一部取り入れさせていただき、病院・附属老健に提供しているすべての食事を同じ厨房で作っておりますので、仕入食材から調理方法等を見直してまいりました。さらにはサービスの充実という事で、しばらく諸事情により休止しておりました特別メニューの提供を再開いたしました。特別メニューは対象の患者様が複数メニューから自由に選択できる有料のサービスです。例えば朝食ですと和食と洋食が選べたり、夕食でしたら基本の献立が例えば鶏照焼定食であれば蕎麦といなり寿司の定食が選べたりという内容です。今までも好評いただいております麺類、丼物、お寿司などを通常メニューや少し価格が厳しいなというものは特別メニューに組み入れております。山本院長よりリクエストがあり、食器を新しくしてもらえないかという事で、一部食器を新しくしましたところ井ぶりの器がとても好評で、器が違うだけでも美味しそうに見えるという事で完食率も上がったと嬉しい声をいただいております。特別メニューは追加料金が発生しますが、ご好評いただいております。現在10~15人程度の方が朝食の特別メニューを選ばれております。私たちの身体は、私たちが食べたもので作られます。入院中の食事(栄養)は治療上とても大切なものであります。できるだけたくさん、美味しく、できれば笑顔で召し上がっていただける食

事を提供できるよう今後も努力いたします。

(患者代表)

使っている食器は割れないものですよ。

(三輪栄養管理室長)

メラミンになります。

(患者代表)

以前の入院で、材質により熱いものが入るとプラスチック臭が漂ってきて、ご飯が食べられないという事がありました。

(委員長)

先日、家族が四日市羽津医療センターに入院させていただきまして、非常に食事が美味しくて一生懸命食べてますという事です。

(院長)

以前はレトルトで温めて提供しており、私も検食で食べていましたが美味しくなかったです。当院で調理するようになってからは美味しくなりました。

(患者代表)

お米問題は影響なかったですか。

(三輪栄養管理室長)

これまで無洗米を使用しておりまして、給食業務の委託している会社の中で準備されるものなので何年産のものか分かりかねましたが、この4月から管理者の方々が、お米は当院で購入しようと決めていただいたので、令和6年三重県産コシヒカリを購入しております。現在、令和7年産が出回っているかと思いますが、次のタイミングにつきましても令和7年産の国産米を入札にかけますので、お米については美味しく食べていただけるかと思っております。

・ ウェイトコントロール外来について

＜平岡看護師長＞

5月から開設させていただきまして、当院は肥満治療薬と言われております持続性 GLP-1 受容体作動薬という注射があり、そちらを使用可能な施設と認定されております。四日市市で言いますと当院と県立総合医療センターと市立四日市病院の3施設のみとなっております。当院ではこの注射を使うために、まずは無理のない形で生活習慣の改善から取り組んでいただくプログラムとなっております。初めの6カ月は食事と運動など生活習慣の改善を医師・薬剤師・理学療法士・管理栄養士の方に支援に入ってください、かつ患者さん中心の医療というところで患者さんに目標を立ててもらっております。患者さんの中には日々減量を頑張ってもなかなか過食のスピードが収まらず、ひとりで心細いところをサポートしてほしいという声をいくつかいただいておりました。この度、この肥満治療薬が当院でも使えるようになりましたので、チームを作りまして減量プログラムというものを作成しております。患者さんに目標を立ててもらったうえでプログラムの作成から始めます。半年ほど食事・運動療法で改善をしたのちに肥満治療薬を週1回注射製剤として使用していくという事になります。適応条件には糖尿病、脂質異常症、高血圧症のいずれかの病気をお持ちの方です。肥満の度合いは BMI27 kg/m² 以上かつ①耐糖能障害、②脂質異常症、③高血圧、④高尿酸血症・痛風、⑤冠動脈疾患、⑥脳梗塞、⑦非アルコール性脂肪性肝疾患、⑧月経異常・不妊、⑨閉塞性睡眠時無呼吸症候群・肥満低換気症候群、⑩運動

器疾患、⑩肥満関連腎臓病のうち、2つ以上の肥満症に関連する健康障害を有する方です。やはり肥満が引き金となって生活習慣病であったり、その他の疾患を引き起こしてしまっているという背景が根底にあります。まずは減量を無理なく健康的にさせてもらうことで次なる合併症を引き起こさないというところを大きな目標とさせていただいております。また、肥満症の有害症状がない方でもBMIが35 kg/m²以上の肥満の方もこちらの治療が可能となっております。減量というのは簡単なようで決して簡単ではなく、生活の中でできる事1つでも2つでも見つけてさせていただければと思います。この4月・5月から開始して現在取り組まれている方が12名いらっしゃいますが、この4カ月で20kg減量された方もいらっしゃいます。あまり減量をしすぎてもいけないと思っていまして、患者さんに無理のない形という事と、しっかりと栄養を摂りながら体を動かす時間をきちんと作って生活リズムを作る事を大切に思いながらプログラムを作成しております。診療等の流れになりますが、長きに渡ると2年ぐらいのプログラムになってきます。ただ、健康的に痩せていただくという中でリバウンドしないという事も目標の中に入れております。その間には身体の中の健康チェックを定期的に行う実施していただく予定です。体組成検査と言われるような筋肉量や体脂肪量・体水分量の配分をチェックさせていただいたり、あるいは肥満が原因でその他の病気が発症していないかというところをCT検査等で確認させていただいたり、肥満が原因になっている無自覚性無呼吸症候群の方もこれをきっかけに治療に移行できれば良いと思います。

(患者代表)

副反応はありますか。

(平岡看護師長)

消化器の腸をゆるやかにするので食欲が落ちるため、その感覚が患者さんにとっては胃がムカムカする感覚に陥る方もいます。この2年間のプログラムの間にその方に合った注射の量を見つけていくという事もさせていただくので消化器症状が出たり、痩せすぎたりしたら注射の量を減量して、体重の減量のスピードが少し落ちてきたら注射の量を増量するという配分をしますのでご心配なく対応させていただきます。

(委員長)

12名の方は紹介ですか。

(平岡看護師長)

院内の方と紹介の方で半々です。

2. その他

なし

3. 意見交換

(行政)

昨年度の能登半島地震で福祉施設がコントロールする事が難しかったという事で、政府として今まで保健医療調整本部という形でしたが、保健医療福祉調整本部という福祉がつけました。これからの福祉をどういう風にやっていくか四日市市の色々な問題かと考えます。

災害が起きた時ですが、仮に人手が少ない日曜日の夜とかに発生した場合、羽津医療センターさんではBCPをどのようにされていますか。

(長谷川副院長)

BCPについてはバージョンアップしていますが、十分には対応できておりません。各部署での初動を見直しております。

(行政)

私も津から通勤していますが、災害が起きた時にどうしようかと思えます。

(長谷川副院長)

夜間・休日に発生したした場合、管理者がどれだけの時間で病院にこられるか等難しいところがありますが、可能な限り少しずつですがアクションカードを検討中です。

(行政)

保健所自体も色々やっつけていかなければと思っています。あと、老健施設はどうですか？

(大橋老健施設管理係長)

老健の防災災害対策委員会を月に1~2回開催しております。老健版のBCPにつきましても、毎回バージョンアップをしております。職員の参集についても話をしており、早いタイミングで参集できるように、職員がどの地域に住んでいて、どれぐらいの時間で誰から順番にこられるかを検討して、今後さらにバージョンアップをしていきます。

(委員長)

医師の確保はやはり難しいところだと思うので、今後色々検討していただければと思います。

(自治会)

学校、地域、行政と合同で訓練をするのですが、各課題を見つけたいと思います。四日市羽津医療センターさんが災害時に利用できなかつたり、重症患者さんしか診療してもらえない場合等、地域の開業医が対応できるのか今後課題にしていけないと思います。本日も防災会議をしておりましたが、避難訓練で皆ケガをしていない前提で避難所に来ていますから、大規模災害が起きた時に無傷の人ばかり来るという事はほとんど少ないという想定を行ったり、小さいケガをどのように対応するのかを今後検討していかなければと思います。

(委員長)

医師会でも軽症者は開業医で診ようとしております。基本的な戦略としては自分のところが開けられるならば開業医は開けて対応する、自院が開けない状況や、職員が来られない等であれば、3病院（県立総合病院・市立四日市病院・四日市羽津医療センター）の手前に救護所を作りましょうという取り組みを行っていますが、場所の確保が非常に難しいです。

(自治会)

何年も前に羽津会館が指定されていますと言われていたのですが、具体的に決まっていないう事でどうしようもない。

(委員長)

決まっていません。毎年、羽津だけは場所が違います。先日、訓練を行った時は、いしが在宅さんの駐車場をお借りしました。本当は四日市羽津医療センターの駐車場を使うとか山手中学校を使うとかありますが、ただ公共施設は避難所に使うので救護所として使用することが難しい場合があり、場所の確保に苦慮しています。

(自治会)

羽津地区としては羽津会館が緊急時に使われるという事で外して考えていましたが、決まっていませんと言われると、太陽光も設置していますし、水も羽津地区全体を補えるぐらいのタンクを設置しており、これを医療に提供するという認識でございましたが、決まっていないうのであれば住

民が使える方向に考えていかなければいけないです。

(委員長)

我々の中でも救護所がどこまで意味があるのかという意見があります。救護所訓練をしていますが、例えば大きな災害では患者さんは来れないだろうし、救護所を立ち上げてもしようがない。患者さんが誰でも来れるような災害であれば開業医は自院が開ける訳であり、救護所に来る医師がないため、非常にジレンマがあって訓練していてもやっていけるのかというのが正直な印象です。根本から考え直す意見は出しています。

(自治会)

避難所にはたくさん来ると思います。

(委員長)

本来は我々が避難所に行って巡回した方が良いのかと思いますが、それは災害発生3日後ぐらいになり、発災直後から3日目までどうするのかというところを考えております。救護所に医師会から派遣して、ピックアップして大きな病院に搬送というシステムを作っていかなければいけないと思っています。

(患者代表)

婦人科に受診したい方からの質問があり、婦人科外来に誰もいない状況ですけどやっているのですかという事です。閉じている訳ではないですか。

(長谷川副院長)

閉じている訳ではないです。非常勤医師になりますので、時間帯によっては人がいない状況になっているかもしれません。

(患者代表)

医師が何曜日に診察をしているのか聞きたい時には、お電話にて確認させてもらえばよろしいですか。

(平岡看護師長)

お電話をいただければありがたいです。休診の場合はホームページにアップしておりますが、原則午前中は診察しており、予約にはなっておりますが、事前にご連絡いただいたり、状況によっては先生にご相談もさせてもらっています。

4. 閉会挨拶<長谷川副院長>

本日はご多忙の中遅くまでご参加していただきまして誠にありがとうございます。災害に関しても貴重なご意見をいただき、健診結果の発送につきましても身につまされる思いでございますが、いただいたご意見を持ち帰りまして、できる限り早急に改善いたしますので今後ともよろしくお願いたします。

次回開催は改めて日程調整を行います。